

もくじ

もくじ	1
はじめに	3

1章 パソコンの準備 –セットアップ– 7

1 使う前に確認する	8
2 Windows セットアップ	9
① Windows 8.1 のセットアップ	10
② Windows 7 のセットアップ	12
3 Windows 8.1 について	15
① 画面の切り替えについて	15
② チャームの操作について	16
4 Windows セットアップのあとは	18

2章 パソコンの動作がおかしいときは 19

1 「詳細オプション」で調べる – Windows 8.1 の場合 –	20
2 「システム回復オプション」で調べる – Windows 7 の場合 –	21

3章 買ったときの状態に戻すには –リカバリー– 23

1 パソコンを初期状態に戻すために –リカバリーとは–	24
① パソコンを初期状態に戻す前に確認すること	25
② パソコンを初期状態に戻す前にしておくこと	25
2 リカバリーメディアを作る – TOSHIBA Recovery Media Creator –	27
① リカバリーメディアに使用できる記録メディア	27
② インストール方法	28
③ リカバリーメディアを作成する	28

3	パソコンを初期状態に戻す – Windows 8.1のリカバリー –	30
①	いくつかある初期状態に戻す方法	30
②	ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す	30
③	リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す	31
4	パソコンを初期状態に戻す – Windows 7のリカバリー –	33
①	いくつかある初期状態に戻す方法	33
②	ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す	34
③	リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す	35
5	パソコンを初期状態に戻したあとは	38
①	パーティションを変更してリカバリーをした場合	38
②	Office製品の再インストールとライセンス認証	39
③	バックアップしておいたデータを復元する	39
6	プレインストールのアプリケーションを再インストールする	40

4章 廃棄／譲渡について..... **41**

1	捨てるとき／人に譲るとき	42
----------	---------------------	-----------

	リカバリーチェックシート	45
①	パソコンを初期状態に戻す前に確認すること	45
②	パソコンを初期状態に戻す前にしておくこと	45
③	パソコンを初期状態に戻す流れ	45

はじめに







このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書は、Windows 8.1とWindows 7のセットアップ方法とリカバリーの方法などについて説明しています。パソコン本体の機能説明や取り扱い方法については、付属の『取扱説明書』をお読みにになり、操作を行ってください。

また、本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みにになり、正しくお使いください。お読みにになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 参照	参照先を示します。 本書内への参照の場合 …… 「 」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合 …… 『 』

*1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2 軽傷とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。

*3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows

Windows 8.1 ProまたはWindows 7 Professionalを示します。

Windows 8.1

Windows 8.1 Proを示します。

Windows 7

Windows 7 Professionalを示します。

Microsoft IME

Microsoft Office IME 2013を示します。

ドライブ

パソコン本体搭載のDVDスーパーマルチドライブ／DVD-ROMドライブを示します。
搭載しているドライブはモデルによって異なります。

Office 搭載モデル

Microsoft Office Personal 2013またはMicrosoft Office Home and Business 2013をインストールしているモデルを示します。

TPM 搭載モデル

TPM機能を搭載しているモデルを示します。

記載について

- ご購入のシリーズによって内蔵されているコネクタや拡張スロットなどは異なります。詳細については『取扱説明書』をご覧ください。
- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルの場合」「***シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のハードディスクや付属のCD/DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について、表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。
画面右上の「表示方法」が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

参照 お使いのモデルの仕様について
『取扱説明書』

- 本書には、記録メディアについて記載している部分がありますが、モデルによって使用できる記録メディアが異なりますのであらかじめご確認ください。

参照 使用できる記録メディアについて
『取扱説明書』

Trademarks

- Microsoft、Windows及びWindowsロゴは、マイクロソフト企業グループの商標です。
その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温10~30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

著作権について



音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。

必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

■ Windows 8.1 の場合

- ① スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- ② 画面左下のをクリックする
- ③ [はじめに] の  [リリース情報] をクリックする

■ Windows 7 の場合

- ① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

【ユーザー アカウント制御】 画面について

操作の途中で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。

バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルを記録メディアなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スリープ、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていないために、内蔵バッテリーがなくなったとき
- 故障、修理のとき
- メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクドライブや記録メディアなどに保存した内容の損害については当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

お願い

- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム(OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows 標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD/DVDからインストールしたシステム(OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種(型番)を確認後、付属の『保守サービスのご案内』をご覧ください。東芝指定のサービス会社にパスワードの解除をご依頼ください。有料にてパスワードを解除します。
- HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書(お客様自身を確認できる物)の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。

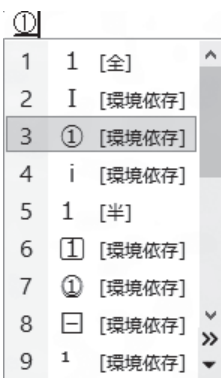
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録(ユーザー登録)をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について『取扱説明書』

環境依存文字について

環境依存文字とは、入力した文字を漢字へ変換するときに表示される候補の右側に「環境依存」、「環境依存文字」または「環境依存文字(unicode)」などと表示されるものです。



(表示例)

- ユーザーアカウント名やフォルダー名に環境依存文字が含まれていると、ファイルの読み込みや保存などが正常に動作しないことがあります。
- コンピューター名に環境依存文字が含まれていると、アプリケーションが起動しないなど、正常に動作しないことがあります。
- ファイル名やファイル内の文字列に環境依存文字が含まれていると、ファイル名が「?」などのように正しく表示されず、正常に動作しないことがあります。
- アプリケーション上でファイルの編集集中に入力した文字列に環境依存文字が含まれていると、作成したファイル上で正しく表示されないことがあります。

このような場合には、環境依存文字を含まない文字列に変更してください。CD/DVDなどの記録メディアにデータを書き込むときは、環境依存文字が含まれていないことをあらかじめ確認してから作業を行ってください。

「Office」のライセンス認証について


* Office搭載モデルのみ

「Office」を使用するには、Windowsのセットアップ後にライセンス認証が必要です。

■ Windows 8.1 の場合

① スタート画面の [Microsoft Office] をクリックする

■ Windows 7 の場合

① [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [Microsoft Office] をクリックする

以降は、画面の指示に従ってください。

ライセンス認証にはプロダクトキーが必要です。

プロダクトキーは、付属の「Office」のパッケージを確認してください。

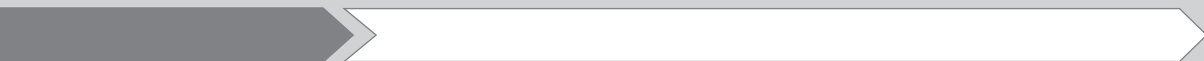
1 章

パソコンの準備 –セットアップ–



この章では、Windows のセットアップと基本操作、ほかのマニュアルなどについて説明しています。

1 使う前に確認する	8
2 Windows セットアップ	9
3 Windows 8.1 について	15
4 Windows セットアップのあとは	18



1

使う前に確認する

1 箱を開けたらまずはこれから

■箱の中身の確認■

『付属品チェックリスト』を参照して、付属品がそろっているか、確認してください。足りない物がある場合や、破損している物がある場合は、東芝指定のサービス会社にお問い合わせください。

参照 ▶ 『保守サービスのご案内』

2 忘れずに行ってください

■はじめに■

ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。

■保証書は大切に保管■

故障やトラブルが起こった場合、保証書があれば保証期間中（保証期間については保証書を確認してください）は東芝の無料修理サービスが受けられます。

保証書に記載の内容を読んで、確認したあと、大切に保管してください。

<small>本書は、取扱説明書等の注意事項による正常なご使用において印刷された場合、裏面の「無料保証規定」に準じて、無料保証を約束するものです。</small>			
※初期インストール(Purchase Date) 登録	年	月	日
OSバージョン			
製品名			
機種名			
保証書発行日			
	電話:		
<small>本書は日本国内での保証と、LW対応製品（上記※欄に●が記載の海外保証（例外的）を証明します。LWについては、対象製品に付属の「保証サービス」に記載の内容を参照してください。 If ● appears at the top of this section, this product is covered by the LW from the date of purchase for the period shown in separate table. ※本書の発行日とは異なる日付で印刷された製品に付属している保証書は、必ずお読み上げ、無料保証を承諾された上、お客様に到着してください。</small>			
※ご購入店名、住所、電話番号			
株式会社 東芝			

3 最適な場所で使う

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、パソコンにも最適な環境です。

次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
不安定な場所に置くと、パソコンが落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やけがにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
磁石はもちろん、スピーカー、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気プレスレットなどもパソコンを使用するときには必ずようにしましょう。
- 照明や日光が当たる位置も考慮しましょう。
照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
携帯電話も無線通信装置の一種です。
- パソコンの通風孔をふさがないように置きましょう。
通風孔はパソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさぐと、パソコン本体内部が高温となるため、本来の性能を発揮できない原因や故障の原因となります。

2

Windows セットアップ

初めて電源を入れたときは、Windowsのセットアップを行う必要があります。
Windowsのセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。

作業を始める前に、付属の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

お願い セットアップをするときの注意

■セットアップ前に確認してください■

- マウスとキーボードが接続されていることを確認してください。接続していないと、セットアップを行うことができません。
- 増設メモリ、PCIカード、PCI Expressカードを取り付けたり、プリンターを接続するなどの機器の拡張を行っている場合、正しくセットアップできない場合があります。ディスプレイやマウス、キーボード以外の周辺機器の取り付けや接続はシステムのセットアップ終了後に行ってください。
- セットアップを行うときは、LANケーブルは接続しないでください。LANケーブルが接続されていると、ネットワークの設定が既定値 (default) のままネットワークに接続してしまうため、ネットワークに障害をもたらす場合があります。
- システムのセットアップ中は、絶対に電源を切らないでください。
- やむをえない場合以外は、セットアップ中にキャンセルしないでください。正しくセットアップできない場合があります。
- ケーブル類が確実に接続されていることを、もう1度確認してください。
- セットアップを行わないと、あらかじめインストールされているシステムやアプリケーションを使用することはできません。

■周辺機器は接続しないでください■

- セットアップが完了するまでは、プリンターなどの周辺機器やLANケーブルは接続しないでください。パソコン本体の電源を切った状態で、あらかじめ取りはずしておいてください。

参照 機器の取りはずし『取扱説明書』

■途中で電源を切らないでください■

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■操作は時間をあけないでください■

- セットアップ中にキーボードの操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。しばらくマウスやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。もう一度表示するには、(Shift)キーを押すか、マウスをさわってください。(Shift)キーやマウスでは復帰せず、Power LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

① Windows 8.1 のセットアップ

必要な機器やケーブル（マウス、キーボード、ディスプレイ、電源コード、ACアダプターなど）を接続し、電源を入れてください。接続方法は『取扱説明書』を参照してください。

パソコンが起動したら、[ライセンス条項] 画面が表示されます。

1 Windows 8.1 のセットアップ

セットアップには約 10～20分かかります。

1 Windows と東芝のライセンス条項の内容を最後まで確認し、[同意します] をクリックする

[パーソナル設定] 画面が表示されます。

2 好きな色を選択する

Windows 画面上の基本色を設定できます。表示されているバーの中から好みの色をクリックしてください。色はあとから変更できます。

3 PC（コンピューター）名を入力する

コンピューターに名前をつけるのは、使用するパソコンをほかのパソコンと区別するためです。必ず設定してください。

半角英数字で任意の文字列を入力してください。半角英数字以外は使用しないでください。

「|」（カーソル）が表示されている位置から文字の入力ができます。

同じネットワークに接続するコンピューターとは別の名前に入力してください。

「toshiba」と入力するときは、キーボードで **(T)(O)(S)(H)(I)(B)(A)** と押します。

■ キーを押しても表示されないときは

キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」（カーソル）が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字を入力できます。表示されていないときは、[PC名] の下の欄をクリックしてください。

■ 入力を間違えたときは

入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう一度入力しましょう。

- カーソルの左側の文字を削除する : **(BackSpace)** キーを押す
- カーソルの右側の文字を削除する : **(Delete)** キーを押す

カーソルを左右に動かすには、**(←)** キーまたは **(→)** キーを押します。

4 [次へ] をクリックする

[オンラインに接続] 画面が表示された場合は、手順5に進んでください。

[設定] 画面が表示された場合は、手順6に進んでください。

5 無線LANの設定を省略するので、[この手順をスキップする] をクリックする

無線LAN機能を使ったネットワークへの接続は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

[設定] 画面が表示されます。

6 [簡単設定を使う] をクリックする

パソコンを使用するうえでの基本的な設定は、セットアップ完了後に変更できるので、ここでは「簡単設定」を選択した場合について説明します。

[お使いのアカウント] 画面が表示されます。

7 ユーザー名を入力する

ユーザー名は、Windows を使用しているユーザーをパソコン側で識別するための名前です。

ここでは、管理者ユーザーのユーザー名を登録します。

管理者ユーザーとは、ネットワークやパソコンを管理する権限を持つユーザーのことです。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、管理者ユーザーは、ほかのユーザーに対して使用制限の設定も行えます。

管理者以外のユーザーは、Windows のセットアップ後に登録できます。

[ユーザー名] と書いてある右の欄に、管理者ユーザーの名前を入力してください。**ユーザー名は、半角英数字で入力してください。**

■ ユーザー名に使えない文字列

ユーザー名を入力するとき、次の文字列を使用しないでください。

CON、PRN、AUX、NUL、COM1、COM2、COM3、COM4、COM5、COM6、COM7、COM8、COM9、LPT1、LPT2、LPT3、LPT4、LPT5、LPT6、LPT7、LPT8、LPT9、@、(スペース)

8 パスワードを入力する

お願い

- パスワードを忘れると、Windows を起動するためには、「リカバリー」という、購入時の状態に戻す処理をするしか、方法がなくなってしまいます。その場合、購入後にパソコンに保存したデータやアプリケーションなどはすべて消失するので、パスワードは忘れないようにしてください。

パスワードとは、それを入力しないと次のステップに進めないようにできる、特定の文字列です。

ここでは、Windows を起動するときに入力しないと、Windows を起動できないようにするためのパスワードを設定します。これを「Windows パスワード」と呼びます。

[パスワード] と書いてある右の欄に、Windows パスワードとして設定したい文字を入力してください。

Windows パスワードは半角英数字で127文字まで設定できます。8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

Windows パスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。

9 パスワードをもう一度入力する

[パスワードの確認入力] と書いてある右の欄に、手順8で入力したWindows パスワードを、もう一度入力してください。

10 パスワードのヒントを入力する

設定したWindows パスワードを忘れてしまったときのために、あらかじめヒントを設定しておく、パスワード入力画面で表示させることができます。

[パスワードのヒント] と書いてある右の欄に、それを読めば自分だけはパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

11 [完了] をクリックする

12 パソコンの設定が準備される

Windows セットアップが終了すると、コンピューターがユーザーの設定を準備します。

しばらくお待ちください。

ロック画面(画面左下に大きく日時が表示されている状態)が表示された場合は、(Shift)キーを押してください。次の画面に進みます。

パスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力して(Enter)キーを押してください。

Windows が起動します。



メモ

- しばらくマウスやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。もう一度表示するには、(Shift)キーを押すか、マウスをさわってください。(Shift)キーやマウスでは復帰せず、Power LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

② Windows 7のセットアップ

必要な機器やケーブル（マウス、キーボード、ディスプレイ、電源コード、ACアダプターなど）を接続し、電源を入れてください。接続方法は『取扱説明書』を参照してください。

パソコンが起動したら、OSのタイプを選択する画面または [Windowsのセットアップ] 画面が表示されます。



- [Windowsのセットアップ] 画面が表示されるまで、しばらく時間がかかります。また、モデルによっては必要なアプリケーションをインストールしているメッセージ画面が表示される場合がありますが、この間に絶対に電源を切らないようにしてください。
- Windowsのセットアップが完了するまで、音量の調節はできません。

1 OSのタイプを選択する画面が表示された場合

* [Windowsのセットアップ] 画面が表示された場合は、「本項 2 Windows 7のセットアップ」に進んでください。

パソコンが起動し、OSのタイプを選択する画面が表示された場合は、Windows 7のOSのタイプ（32ビット版と64ビット版）を選択します。

使い慣れたソフトや周辺機器を活用できる32ビット版、対応しているアプリケーションを使えばより高いパフォーマンスを発揮できる64ビット版、それぞれ目的に応じて選択してください。

工場出荷時にインストールされているOSと違うOSのタイプを選択した場合は、再インストールが必要になりますので、セットアップ開始までに約2～2.5時間かかります。

1 インストールするOSタイプの左にある をクリックする

工場出荷時にインストールされているOSタイプは、別紙の『本製品の仕様について』を参照してください。

32ビット版のときは [Windows 7 32ビットバージョン] を、64ビット版のときは [Windows 7 64ビットバージョン] をクリックしてください。

をクリックすると になります。

2 [次へ] ボタンをクリックする

■ 工場出荷時がWindows 7 32ビット版の場合

32ビットを選択した場合には、終了画面が表示されます。

[終了] ボタンをクリックし、続けて「本項 2 Windows 7のセットアップ」に進んでください。

64ビットを選択した場合には、警告メッセージ画面が表示されます。

「3章 4-② ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す」の手順4以降の操作を行ってください。

■ 工場出荷時がWindows 7 64ビット版の場合

32ビットを選択した場合には、警告メッセージ画面が表示されます。

「3章 4-② ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す」の手順4以降の操作を行ってください。

64ビットを選択した場合には、終了画面が表示されます。

[終了] ボタンをクリックし、続けて「本項 2 Windows 7のセットアップ」に進んでください。

2 Windows 7のセットアップ

セットアップには約10～20分かかります。

1 [国または地域] 欄に「日本」と表示されていることを確認し、[次へ] ボタンをクリックする

ユーザー名とコンピューター名を入力する画面が表示されます。

ユーザー名は、Windows を使用しているユーザーをパソコン側で識別するための名前です。

次の手順では、管理者ユーザーのユーザー名を登録します。

管理者ユーザーとは、ネットワークやコンピューターを管理する権限を持つユーザーのことです。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、管理者ユーザーは、ほかのユーザーに対して使用制限の設定も行えます。管理者以外のユーザーは、Windowsのセットアップ後に登録できます。

2 ユーザー名を入力する

[ユーザー名を入力してください] と書いてある下の欄に、管理者ユーザーの名前を入力してください。

ユーザー名は、半角英数字で入力してください。

[toshiba] と入力するときは、キーボードで **T O S H I B A** と押します。

■ ユーザー名に使えない文字列

ユーザー名を入力するとき、次の文字列を使用しないでください。

CON、PRN、AUX、NUL、COM1、COM2、COM3、COM4、COM5、COM6、COM7、COM8、COM9、LPT1、LPT2、LPT3、LPT4、LPT5、LPT6、LPT7、LPT8、LPT9、@、(スペース)

■ キーを押しても表示されないときは

キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」（カーソル）が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字を入力できます。表示されていないときは、[ユーザー名を入力してください] の下の欄をクリックしてください。

■ 入力を間違えたときは

- カーソルの左側の文字を削除する : **BackSpace** キーを押す
- カーソルの右側の文字を削除する : **Delete** キーを押す

カーソルを左右に動かすには、**←** キーまたは **→** キーを押します。

3 コンピューター名を入力する

コンピューターに名前をつけるのは、使用するパソコンをほかのパソコンと区別するためです。ネットワークに接続する場合は、必ず設定してください。

[コンピューター名を入力してください] と書いてある下の欄に、半角英数字で任意の文字列を入力してください。

半角英数字以外は使用しないでください。また、同じネットワークに接続するコンピューターとは別の名前にしてください。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[ユーザーアカウントのパスワードを設定します] 画面が表示されます。

5 パスワードを入力する

お願い

- パスワードを忘れて、Windows を起動するためには、「リカバリー」という、購入時の状態に戻す処理をするしか、方法がなくなってしまいます。その場合、購入後にパソコンに保存したデータやアプリケーションなどはすべて消失するので、パスワードは忘れないようにしてください。

[パスワードを入力してください] と書いてある下の欄に、Windows ログオンパスワードとして設定したい文字を入力してください。

Windows ログオンパスワードは半角英数字で127文字まで設定できます。8文字以上で設定することをおすすめします。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。

Windows ログオンパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。

6 パスワードをもう一度入力する

【パスワードをもう一度入力してください】と書いてある下の欄に、手順5で入力したWindowsログオンパスワードを、もう一度入力してください。

7 パスワードのヒントを入力する

設定したWindowsログオンパスワードを忘れてしまったときのために、あらかじめヒントを設定しておく、パスワード入力画面で表示させることができます。

【パスワードのヒントの入力】と書いてある下の欄に、それを読めば自分だけはパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

8 【次へ】 ボタンをクリックする

【ライセンス条項をお読みになってください】画面が表示されます。

9 マイクロソフトと東芝のライセンス条項の内容を確認し、それぞれの【ライセンス条項に同意します】の左にある□をクリックする

ライセンス条項に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windowsやコンピューターを使用することはできません。

表示されている条項文の続きを表示するには、画面の右側にある▼ボタンをクリックします。

10 【次へ】 ボタンをクリックする

【コンピューターの保護とWindowsの機能の向上が自動的に行われるように設定してください】画面が表示されます。

11 【推奨設定を使用します】をクリックする

【日付と時刻の設定を確認します】画面が表示されます。

12 日付と時刻を確認する

コンピューターの内蔵時計の日付と時刻が合っているかどうか確認し、合っていない場合は、正しい内容に設定してください。

【タイムゾーン】は、欄の右にある▼をクリックして、表示された地名から「大阪、札幌、東京」をクリックしてください。年・月の左右にある◀または▶をクリックすると、月ごとに順に表示が切り替わります。

年・月を合わせてから、該当する日をクリックしてください。

時刻表示の右にある▲または▼をクリックすると、順に数字が切り替わります。

変更したい時/分/秒をクリックしてから▲または▼をクリックしてください。



メモ

- 日付と時刻が合っていないと、本製品に用意されているウイルスチェックソフトなどの使用期限のあるアプリケーションでは、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。そのため、この時点で、日付と時刻が合っていることを必ず確認してください。
- 日付と時刻はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。

参照 ▶ 日付と時刻の設定【Windowsヘルプとサポート】

13 【次へ】 ボタンをクリックする

14 ユーザーの設定が準備される

Windowsセットアップが終了すると、コンピューター内にユーザーの設定が用意されます。

モデルによっては、作業を完了するためにシステムが再起動します。

しばらくお待ちください。

パスワード入力画面が表示された場合は、Windowsログオンパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押してください。

Windowsが起動します。



メモ

- しばらくマウスやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。もう一度表示するには、**(Shift)**キーを押すか、マウスをさわってください。**(Shift)**キーやマウスでは復帰せず、Power LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。
- パソコンを起動するとき流れるWindowsの起動音がまれに途切れる場合がありますが、故障ではありません。

3

Windows 8.1 について

Windows 8.1の画面構成やメニューの位置は、Windows 7などの従来のWindowsとは異なっています。従来のWindowsとWindows 8.1で大きく異なる点は、メイン画面が2種類あることです。

起動して最初に表示される「スタート画面」*1と、従来のWindowsに似ている「デスクトップ画面」があります。

*1 起動して最初に表示される画面をデスクトップ画面に変更することもできます。

<スタート画面>



(表示例)

<デスクトップ画面>



(表示例)



① 画面の切り替えについて

スタート画面とデスクトップ画面の切り替えかたについて説明します。

■スタート画面からデスクトップ画面に切り替える■

1 「デスクトップ」をクリックする

* 「デスクトップ」アイコン(タイル)は、デスクトップ画面の壁紙によって表示されるアイコンが異なります。またモデルや使用状況により、画面上での位置が異なる場合があります。



(表示例)

デスクトップ画面が表示されます。

■デスクトップ画面からスタート画面に切り替える■

1 「スタート」アイコン () をクリックする



(表示例)

スタート画面が表示されます。

メモ

- パソコンを起動して最初に表示される画面*¹を、スタート画面ではなく、デスクトップ画面に変更できます。
* 1 Windowsパスワードを設定している場合や、ほかのユーザーアカウントを登録している場合は、先に確認の画面が表示されます。

次の設定を行ってください。

- ① デスクトップ画面でタスクバーを右クリックする
メニューが表示されます。
- ② [プロパティ] をクリックする
- ③ [ナビゲーション] タブをクリックし、[サインイン時または画面上のすべてのアプリを終了したときに、スタート画面ではなくデスクトップに移動する] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

② チャームの操作について

「チャーム」と呼ばれるメニューバーについて説明します。

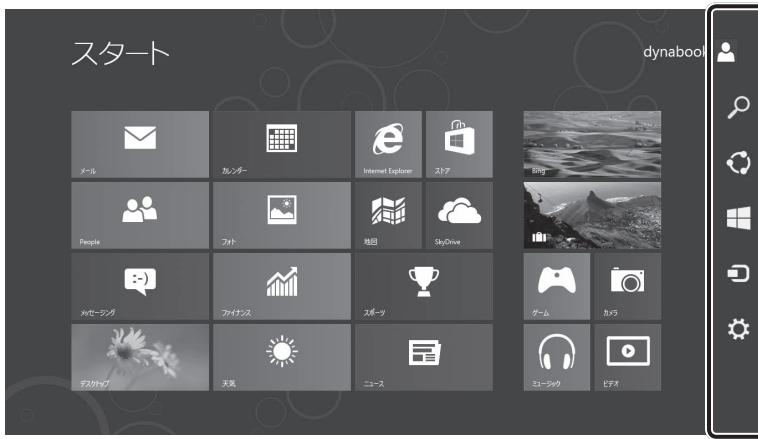
1 ポインターを画面の上または下の右隅に合わせる








(表示例)

5つのメニューアイコンが表示されます。

2 目的の項目を選択する




(表示例)

 検索	本製品内のアプリケーション、ファイル、機能などを検索します。インターネット上の情報検索もできます。
 共有	共有するためのツールが用意されています。
 スタート	画面を切り替えます。
 デバイス	パソコンに接続している周辺機器を表示します。
 設定	設定メニューです。電源を切るためのメニューもここにあります。

2 アプリケーション一覧の表示について

アプリケーション一覧の表示方法について説明します。

1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する

あらかじめ、画面左下に  が表示されている場合は、この手順は必要ありません。

2 画面左下の をクリックする

[アプリ] 画面が表示されます。

4

Windows セットアップのあとは

Windows セットアップ終了後の基本操作について、説明します。

日付と時刻の確認

日付と時刻は、デスクトップ画面右下の [通知領域] に表示されています。

正しく設定されているかどうか確認してください。

正しく設定されていない場合は、設定しなおしてください。

日付と時刻の設定については、Windows 8.1 の場合は、チャームの [検索] で検索し、Windows 7 の場合は、『Windows ヘルプとサポート』を確認して設定してください。

Windows でわからない操作があったとき

● Windows 8.1 の使いかた

Windows 8.1 については、チャームの [検索] (🔍) を使って調べたり、スタート画面の [ヘルプ+使い方] (❓) をクリックして『ヘルプ+使い方』の説明を参照してください。

インターネット上の情報検索もできます。

● Windows 7 の使いかた

[スタート] ボタン (⊕) → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

● Windows について

Windows の最新情報は次のホームページから確認できます。

URL : <http://www.microsoft.com/japan/windows/default.mspx>

Windows を最新の状態にする

「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

「Windows Update」については、Windows 8.1 の場合は、チャームの [検索] で検索し、Windows 7 の場合は、『Windows ヘルプとサポート』を確認して設定してください。

リカバリーメディアの作成

リカバリーメディアを作成しておくことを強くおすすめします。リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元 (リカバリー) するためのものです。

参照▶ リカバリーメディアについて「3章 2 リカバリーメディアを作る」

なお、リカバリーメディアを使って実際にリカバリーを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

参照▶ リカバリーについて「3章 買ったときの状態に戻すには」

バックアップをとる

作成したファイルを誤って削除してしまったり、突然のパソコンのトラブルによって保存したファイルが使えなくなってしまうことがあります。

このような場合に備えて、あらかじめファイルをDVD-RやUSBフラッシュメモリなどの記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

一度なくしたデータを復旧することはできません。

万が一のために、必ず定期的にバックアップをとりましょう。

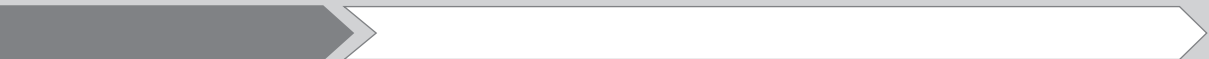
2章

パソコンの動作がおかしいときは



パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

- | | |
|---------------------|----|
| 1 「詳細オプション」で調べる | |
| - Windows 8.1 の場合 - | 20 |
| 2 「システム回復オプション」で調べる | |
| - Windows 7 の場合 - | 21 |



1

「詳細オプション」で調べる － Windows 8.1 の場合－

「詳細オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。

1 起動方法

1 データを保存し、**[Shift]**キーを押しながら**[シャットダウン]**をクリックして電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

2 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後にキーボードの**[0]**（ゼロ）キー（かな入力の**[わ]**キー）を数回押す
各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して**[Enter]**キーを押してください。
[オプションの選択] 画面が表示されます。

3 **[トラブルシューティング]** をクリックする
[トラブルシューティング] 画面が表示されます。

4 **[詳細オプション]** をクリックする
「詳細オプション」が起動します。

5 使いたいメニュー名をクリックする
この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

2

「システム回復オプション」で調べる － Windows 7の場合－

「システム回復オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。

1 起動方法

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

2 電源スイッチを押し、すぐに **(F8)** キーを数回押す

または

電源スイッチを押し、製品ロゴが表示されたら、メニューが表示されるまで **(F8)** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **(Enter)** キーを押してください。そのあとすぐに、**(F8)** キーを再び数回押してください。

「詳細ブート オプション」が表示されます。

3 **[コンピューターの修復]** を選択し、**(Enter)** キーを押す

キーボードの選択画面が表示されます。

4 **[日本語]** を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックする

ログオン画面が表示されます。

5 ユーザー名を選択し、Windowsログオンパスワードを入力する

6 **[OK]** ボタンをクリックする

「システム回復オプション」が起動します。

- スタートアップ修復
システムファイルの不足や破損など、Windowsの正常な起動を妨げる可能性のある問題を解決し、正常に起動できるようにします。
- システムの復元
システムファイルを正常に機能していた日時の状態に復元することができます。
- システム イメージの回復
以前に作成したシステム イメージを使用して、コンピューターを回復します。
システム イメージの詳細は、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
- Windows メモリ診断
メモリが正常に機能しているかどうかを確認します。
- コマンド プロンプト
コマンド プロンプトに切り替えます。
- TOSHIBA Recovery Wizard
リカバリーメニューを表示します。

7 使いたいメニュー名をクリックする

このあとの操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

3章

買ったときの状態に戻すには –リカバリー–

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリー」について説明しています。リカバリーを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

- | | | |
|---|--|----|
| 1 | パソコンを初期状態に戻すために
–リカバリーとは– | 24 |
| 2 | リカバリーメディアを作る
– TOSHIBA Recovery Media Creator – | 27 |
| 3 | パソコンを初期状態に戻す
– Windows 8.1 のリカバリー– | 30 |
| 4 | パソコンを初期状態に戻す
– Windows 7 のリカバリー– | 33 |
| 5 | パソコンを初期状態に戻したあとは | 38 |
| 6 | プレインストールのアプリケーションを
再インストールする | 40 |

1

パソコンを初期状態に戻すために —リカバリーとは—

パソコンを初期状態に戻す（リカバリー）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元する作業です。

ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows パスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

一度リカバリーを始めると、途中で中止したり、パソコンの電源を切ることはできません。リカバリーには時間がかかりますので、時間の余裕をもって行ってください。

ハードディスクドライブからのリカバリーには、約2～2.5時間かかります。リカバリーメディアからのリカバリーは、さらに1時間程度長かかります。

次のような場合で、どうしても改善する方法がないときにリカバリーをしてください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- ハードディスクドライブにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピューターウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない*¹
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝指定のサービス会社に相談した結果、「リカバリーが必要」と診断された

*¹ ウイルスチェックソフトが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリーができなくなることがあります。

メモ

- リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。誤ってほかの人にリカバリーを実行されないよう、ユーザーパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザーパスワード『取扱説明書』

- 購入時にプレインストールされていたアプリケーションやドライバーを誤って削除してしまった場合は、「アプリケーションの再インストール」から再インストールを行うことをおすすめします。

参照 「本章 6 プレインストールのアプリケーションを再インストールする」

それでも解消できない場合にリカバリーを行ってください。

役立つ操作集

パソコンのリフレッシュについて

* Windows 8.1のみ

パソコンのリフレッシュ機能は、Windows 8.1 に搭載されているトラブルシューティングのツールです。パソコンのリフレッシュを行うと、おもな個人データを消去せずに、Windows を再インストールします。リフレッシュの操作方法については、チャームの検索欄に「PC をリフレッシュする」と入力して検索してください。

① パソコンを初期状態に戻す前に確認すること

パソコンの動作がおかしいと感じたとき、次の方法を実行してみてください。リカバリーをしなくても、状態が改善される場合があります。次の方法をすべて試してみても状態が改善されない場合に、リカバリーを実行してください。

ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

ウイルスチェックソフトを使って、ウイルスに感染していないかどうかを確認してください。ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。その際、ウイルス定義ファイル（パターンファイル）は、最新のものに更新しておいてください。場合によっては、ウイルスチェックソフトで駆除できないウイルスもあります。そのときは、リカバリーを実行してください。

周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

メモリやUSB対応機器など、購入後に追加で増設した機器が障害の原因となっている場合があります。それらを取りはずしてから、再起動して、動作を確認してみてください。また、電源関連のトラブルの場合は、パソコンの電源を切り、電源コードをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してみてください。

参照 機器の取りはずし『取扱説明書』

ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、『取扱説明書』の「5章 困ったときは」を確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。

また、Windows 8.1の場合は「2章 1「詳細オプション」で調べる」、Windows 7の場合は「2章 2「システム回復オプション」で調べる」で、Windowsが正常に起動しなくなった場合に使用する「詳細オプション」／「システム回復オプション」の説明をしています。

それでも解消できないときに、リカバリーをしてください。

システムの復元で以前の状態に復元する

「システムの復元」は、パソコンに問題が発生したときに、個人用のデータを失わずにパソコンを以前の状態に復元するための機能です。

参照 Windows 8.1の場合「2章 2「詳細オプション」で調べる」
Windows 7の場合「2章 3「システム回復オプション」で調べる」

② パソコンを初期状態に戻す前にしておくこと

リカバリーをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

準備するもの

- 『セットアップガイド』（本書）
- 『取扱説明書』
- 巻末のリカバリーチェックシートをコピーしたもの
- リカバリーメディア（あらかじめ作成してあるリカバリーメディアからリカバリーする場合）
- リカバリーDVD-ROM（付属しているモデルの場合）

必要なデータのバックアップをとる

リカバリーをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、ハードディスクドライブに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、記録メディア（CD/DVDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

- [ドキュメント]（または [マイ ドキュメント]）、[ピクチャー]（または [マイ ピクチャー]）などのデータ
- 購入後にデスクトップに保存したデータ
- Microsoft Internet Explorerの [お気に入り] のデータ
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
- 購入後に作成したフォルダーとファイル

また、リカバリー後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

ただし、ハードディスクをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなつてからは、バックアップをとることができません。また、リカバリーを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

アプリケーションのセットアップ用メディアを確認する

購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンターなどの周辺機器のドライバーは、リカバリー後に再度インストールする必要があります。

これらをインストールするための記録メディア（CDなど）が、お手元にあることを確認してください。

また、アプリケーションによっては、ID番号などが必要です。あらかじめ確認してください。

各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windows サインイン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、セットアップ時に認証キーの入力が必要なアプリケーションは、認証キーの番号を控えておいてください。設定項目や認証キーの番号などの確認方法は、各アプリケーションのヘルプを参照するか、サポート窓口にお問い合わせください。

周辺機器を取りはずす

プリンターなどの周辺機器やLANケーブルは取りはずしてください。このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照 ▶ 機器の取りはずし『取扱説明書』

2

リカバリーメディアを作る - TOSHIBA Recovery Media Creator -

パソコンにトラブルが発生したときに、パソコンを購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

参照▶ リカバリーの詳細「本章 1 パソコンを初期状態に戻すために」

本製品のハードディスクドライブには、システムやアプリケーションを購入時の状態に戻すためのリカバリーツールが搭載されています。

しかし、トラブルの原因によっては肝心のリカバリーツールを起動できないおそれもあります。

このような場合に備え、あらかじめリカバリーツールをDVDなどの記録メディアにコピーしておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

ハードディスクドライブからリカバリーができない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーができます。

リカバリーメディアの作成は、「TOSHIBA Recovery Media Creator」で行います。

作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

【リカバリーを行うと】

リカバリーをすると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

① リカバリーメディアに使用できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ
- 記録用のDVDメディア（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

必要な記録メディアの枚数や容量は「TOSHIBA Recovery Media Creator」画面に表示されます。

DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用するときは、同じ規格の記録メディアで統一してください。

USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。

表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- 推奨するメーカーのDVDを使用してください。規格に準拠したDVDを使用してください。

参照▶ 使用できるDVD記録メディア『取扱説明書』

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMおよびブルーレイディスクを使用できません。「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

また、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。電源オフ／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。



あらかじめ、DVD使用上の注意事項やUSBフラッシュメモリ使用上のご注意を確認してください。

参照▶ DVDやUSBフラッシュメモリ使用上のご注意『取扱説明書』


② インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

Windows 8.1 の場合


- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [ アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 4 [セットアップ画面へ] をクリックする
- 5 [ユーティリティ] タブをクリックする
- 6 画面左側の [TOSHIBA Recovery Media Creator] をクリックし、[「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ] をクリックする
- 7 画面の指示に従ってインストールする
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。

Windows 7 の場合

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 2 [セットアップ画面へ] をクリックする
- 3 [ユーティリティ] タブをクリックする
- 4 画面左側の [TOSHIBA Recovery Media Creator] をクリックし、[「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ] をクリックする
- 5 画面の指示に従ってインストールする
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。

③ リカバリーメディアを作成する

1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する

Windows 7の場合は、[スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [サポート&リカバリー] → [リカバリーメディア作成ツール] をクリックしてください。
「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。
手順4に進んでください。

2 画面左下の をクリックする

3 [サポート&リカバリー] → [リカバリーメディア作成ツール] をクリックする

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

4 [タイトル]、[メディア構成] を選択する

[情報] に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。
DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

5 [作成] ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

6 DVDまたはUSBフラッシュメモリをセットする

参照 ▶ DVDのセット『取扱説明書』

参照 ▶ USBフラッシュメモリ『取扱説明書』

7 [OK] ボタンをクリックする

作成が開始され、[現在のメディア] に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。
DVDの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。
作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

8 メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディア」であること
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX (番号)」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

9 [[閉じる] ボタン () をクリックする

「TOSHIBA Recovery Media Creator」画面が閉じ、リカバリーメディアの作成を終了します。

参照 ▶ リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順

「本章 3 パソコンを初期状態に戻す -Windows 8.1 のリカバリー-」

「本章 4 パソコンを初期状態に戻す -Windows 7 のリカバリー-」

「TOSHIBA Recovery Media Creator」の詳細は、ヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

3

パソコンを初期状態に戻す － Windows 8.1 のリカバリー－

本製品をリカバリーする方法について説明します。
リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。

① いくつかある初期状態に戻す方法

リカバリーには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリーをする
- 作成したリカバリーメディアからリカバリーをする
- 付属のリカバリーDVD-ROMからリカバリーをする（付属しているモデルのみ）

通常はハードディスクドライブからリカバリーをしてください。
作成したリカバリーメディアや、付属のリカバリーDVD-ROMからのリカバリーは、ハードディスクドライブのリカバリーツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリーができなかった場合などに行うことをおすすめします。

リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 ▶ 「本章 2 リカバリーメディアを作る」

メモ

- Office搭載モデルの場合、リカバリー後、「Office」のライセンス認証が必要になります。



参照 ▶ 詳細について「はじめに - 「Office」のライセンス認証について」

- Office搭載モデルを、付属のリカバリーDVD-ROMからリカバリーした場合は、リカバリー後にOffice製品を再インストールする必要があります。

参照 ▶ 「本章 5-② Office製品の再インストールとライセンス認証」

② ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す

メモ

- 記録メディアをセットしていない状態で実行してください。セットされていると、エラーになる場合があります。
- [キャンセル] ボタンが無い画面で操作を中断したい場合は、[オプションの選択] 画面が表示されるまで  ボタンをクリックし、[PCの電源を切る] ボタンをクリックしてください。
-  ボタンが表示されていない場合は、[キャンセル] ボタンが表示されるまで操作を進めてから [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

1 データを保存し、**[Shift]**キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

2 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後にキーボードの **[0]**（ゼロ）キー（かな入力の **[わ]** キー）を数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。

[オプションの選択] 画面が表示されます。

4 **[トラブルシューティング]** をクリックする

[トラブルシューティング] 画面が表示されます。

5 [PCを初期状態に戻す] をクリックする

「この操作を行うと：」と表示されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

「目的のオペレーティングシステムを選んでください。」と表示された場合は、手順7に進んでください。
「ファイルの削除だけでなく、ドライブを完全にクリーンアップしますか？」と表示された場合は、手順8に進んでください。

7 [Windowsがインストールされているドライブのみ] をクリックする

「ファイルの削除だけでなく、ドライブを完全にクリーンアップしますか？」と表示されます。

8 [ファイルの削除のみ行う] をクリックする

「すべて準備できました」と表示されます。

**メモ**

- [ドライブを完全にクリーンアップする] を選択してもリカバリーは行えますが、5時間程度かかる場合があります。また、ドライブ内のデータはすべて消去されます。このため、通常は[ファイルの削除のみ行う]を選択することをおすすめします。

9 [初期状態に戻す] ボタンをクリックする

画面下部に「PCを初期状態に戻しています」と表示され、進行状況がパーセントで表示されます。この間、何も操作する必要はありません。そのまましばらくお待ちください。

また、この間は絶対に電源を切らないでください。

以降は画面に従って操作してください。

10 セットアップ画面が表示されたら、Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 2 Windows セットアップ」

③ リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す

* ここでは、リカバリーメディアを使用した場合について説明します。

リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 「本章 2 リカバリーメディアを作る」

**メモ**

- 操作を中断したい場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

1 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。
USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

3 電源を入れ、ビーブ音が鳴った直後に[F11] キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して[Enter]キーを押してください。

4 [↑]または[↓] キーで起動ドライブを選択する

リカバリーメディアがDVDの場合は本製品のドライブを示す項目、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目を選択し、[Enter]キーを押してください。

■ 表示言語を選択する画面が表示された場合

[日本語] を選択し、[次へ] ボタンをクリックしてください。

「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示されます。

5 [TOSHIBA Recovery Wizard] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

警告メッセージ画面が表示されます。

6 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

7 [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクドライブのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスクドライブ上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 「4章 1-4 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する」

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

[次へ] ボタンをクリックすると、復元が実行され、[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。]画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。復元中は、リカバリーの経過に従い、画面が変わります。

*最初に[コピーしています。]画面が表示される場合があります。長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、メディアを入れ替えるメッセージが表示され、リカバリーメディアを取り出せる状態になります。メディアの番号順に入れ替え、[OK] ボタンをクリックしてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

9 リカバリーメディアの種類により次の操作を行う

■ DVDの場合

- ① [終了] ボタンをクリックする
自動的にリカバリーメディアを取り出せる状態になります。
- ② リカバリーメディアを取り出す

■ USBフラッシュメモリの場合

- ① USBフラッシュメモリを取りはずす
- ② [終了] ボタンをクリックする

[しばらくお待ちください。]画面が表示されます。

ここから次の手順の[ライセンス条項]画面が表示されるまで、約1.5~2時間かかります。この間、メッセージが表示されたり、システムが自動的に再起動したりしますが、何も操作する必要はありません。

また、この間は絶対に電源を切らないでください。

10 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 2 Windowsセットアップ」

4

パソコンを初期状態に戻す －Windows 7のリカバリー－

本製品をリカバリーする方法について説明します。
リカバリーは、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。

① いくつかある初期状態に戻す方法

リカバリーには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリーをする
- 作成したリカバリーメディアからリカバリーをする

通常はハードディスクドライブからリカバリーをしてください。
作成したリカバリーメディアや、付属のリカバリーDVD-ROMからのリカバリーは、ハードディスクドライブのリカバリーツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリーができなかった場合などに行うことをおすすめします。

リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 「本章 2 リカバリーメディアを作る」

リカバリーメニューについて

次のメニューのなかからリカバリー方法を選択することができます。あらかじめリカバリー方法を決めておくことスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元■

ハードディスクドライブをパソコンを購入したときの状態に戻し、購入時の状態に復元します。購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）

現状のパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。ドライブ（C:）に保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻ります。リカバリーメディアからリカバリーし、リカバリーツールの領域を消去してハードディスクドライブの領域を分割している場合は、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピューターウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、ドライブ（C:）以外の領域にあるデータが使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元■

ドライブ（C:）のサイズを指定して復元します。ドライブ（C:）以外のハードディスクドライブのパーティションは消去されます。購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。



- どのメニューを選択しても、ドライブ（C:）には購入時と同じシステムが復元されます。

② ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す



メモ

- ドライブにメディアをセットしていない状態で実行してください。ドライブにメディアがセットされていると、エラーになる場合があります。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 データを保存し、**[Shift]**キーを押しながら**[シャットダウン]**をクリックして電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

2 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後にキーボードの**[0]**（ゼロ）キー（かな入力の**[わ]**キー）を数回押す 各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して**[Enter]**キーを押してください。 警告メッセージ画面が表示されます。

- OSのタイプを選択する画面が表示された場合
どちらのOSタイプに復元するかをチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックしてください。

4 画面の内容を確認し、**[はい]** ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

5 **[初期インストールソフトウェアの復元]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクドライブのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスクドライブ上にある、リカバリーツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ▶ 「4章 1-4 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する」

6 **[パーティションサイズを変更せずに復元]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

ほかのメニューを選択する場合については、次を参照してください。

- ・ **[ご購入時の状態に復元]** : P.35
- ・ **[パーティションサイズを指定して復元]** : P.35

- **「パーティションサイズを変更せずに復元」の意味と動作**
すでにハードディスクドライブの領域を分割している場合などに使用します。
ドライブ (C:) がリカバリーされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

ドライブ (C:) にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。



メモ

- リカバリーツールとシステム回復オプションの領域などが確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

7 **[次へ]** ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、**[キャンセル]** ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると復元が実行され、**[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。]** 画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリーの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 [終了] ボタンをクリックする

システムが再起動し、[しばらくお待ちください。] 画面が表示されます。
 ここから次の手順の [Windows のセットアップ] 画面が表示されるまで、約 1.5～2 時間かかります。この間、メッセージが表示されたり、システムが自動的に再起動したりしますが、何も操作する必要はありません。[Windows のセットアップ] 画面が表示されるまで、お待ちください。
 また、この間は絶対に電源を切らないでください。

9 Windows のセットアップを行う

参照▶ 詳細について「1 章 2 Windows セットアップ」

その他のリカバリーメニューについて

「本節 ② ハードディスクドライブからパソコンを初期状態に戻す」の手順6の [初期インストールソフトウェアの復元] 画面の、[パーティションサイズを変更せずに復元] 以外のメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元■

パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のパーティション、システム、アプリケーションが復元された状態になります。

手順6では、[ご購入時の状態に復元] をチェックして [次へ] ボタンをクリックしてください。「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元■

ドライブ (C:) のサイズを変更することができます。

ドライブ (C:) のサイズを、設定できる最大値より小さい値に指定した場合、ドライブ (C:) とシステム回復オプション領域、リカバリーツールの領域以外の領域区分 (パーティション) は消去され、1つの領域になります。この領域はそのままではドライブとして認識されず、使用することはできません。リカバリー後、「コントロールパネル」の「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照▶ ディスクの管理「本章 5-① パーティションを変更してリカバリーをした場合」

リカバリーを行うと、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

手順6では、次の操作を行ってください。

- ① [パーティションサイズを指定して復元] をチェックする
- ② [C : ドライブのサイズ] をクリックしてパーティション (ドライブ (C:)) のサイズを指定する
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
 「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

③ リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す

リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照▶ 「本章 2 リカバリーメディアを作る」

1 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。
 USB フラッシュメモリの場合は USB コネクタに差し込んでください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後に (F11) キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して (Enter) キーを押してください。

4 または キーで起動ドライブを選択する

リカバリーメディアがDVDの場合は本製品のドライブを示す項目、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目を選択し、 キーを押してください。

警告メッセージ画面が表示されます。

- 「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示された場合
「TOSHIBA Recovery Wizard」をチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。
警告メッセージ画面が表示されます。

[システム回復オプション]には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。詳しくは、「2章 2「システム回復オプション」で調べる」を参照してください。

- OSのタイプを選択する画面が表示された場合
どちらのOSタイプに復元するかをチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。

5 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

6 [初期インストールソフトウェアの復元] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[ハードディスク上の全データの消去] は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクドライブのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスクドライブ上にある、すべてのデータが削除されます。

 「4章 1-4 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する」

7 [パーティションサイズを変更せずに復元] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

ほかのメニューを選択する場合には、次を参照してください。

- ・ [ご購入時の状態に復元] : P.37
- ・ [パーティションサイズを指定して復元] : P.37

- 「パーティションサイズを変更せずに復元」の意味と動作

すでにハードディスクドライブの領域を分割している場合などに使用します。

ドライブ (C:) がリカバリーされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

ドライブ (C:) にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。



メモ

- リカバリーツールとシステム回復オプションの領域などが確保されているため、ハードディスクドライブの100%を使用することができません。

8 [次へ] ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると復元が実行され、[パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。] 画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、リカバリーの経過に従い、画面が変わります。

* 最初に [コピーしています。] 画面が表示される場合があります。

長い時間表示される場合もありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリーメディアが複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

9 リカバリーメディアの種類により次の操作を行う

■ DVDの場合

- ① [終了] ボタンをクリックする
自動的にディスクトレイが開きます。
- ② リカバリーメディアを取り出す

■ USBフラッシュメモリの場合

- ① USBフラッシュメモリを取りはずす
- ② [終了] ボタンをクリックする

システムが再起動し、[しばらくお待ちください。]画面が表示されます。

ここから次の手順の[Windowsのセットアップ]画面が表示されるまで、約1.5~2時間かかります。この間、メッセージが表示されたり、システムが自動的に再起動したりしますが、何も操作する必要はありません。[Windowsのセットアップ]画面が表示されるまで、お待ちください。

また、この間は絶対に電源を切らないでください。

10 Windowsのセットアップを行う

参照▶ 詳細について「1章 2 Windowsセットアップ」

その他のリカバリーメニューについて

[本節 ③ リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す]の手順7の[初期インストールソフトウェアの復元]画面の、[パーティションサイズを変更せずに復元]以外のメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元■

パソコンを購入したときの状態に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のパーティション、システム、アプリケーションが復元された状態になります。

手順7では、[ご購入時の状態に復元]をチェックして[次へ]ボタンをクリックしてください。「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元■

ドライブ (C:) のサイズを変更することができます。

ドライブ (C:) のサイズを、設定できる最大値より小さい値に指定した場合、ドライブ (C:) とシステム回復オプション領域以外の領域区分 (パーティション) は消去され、1つの領域になります。この領域はそのままではドライブとして認識されず、使用することはできません。リカバリー後、「コントロールパネル」の「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。リカバリーツールの領域は消去されるため、作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

参照▶ ディスクの管理「本章 5-① パーティションを変更してリカバリーをした場合」

リカバリーを行うと、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去され、ご購入時のシステムやアプリケーションが復元された状態になります。

手順7では、次の操作を行ってください。

- ① [パーティションサイズを指定して復元] をチェックする
- ② [C: ドライブのサイズ] をクリックしてパーティション (ドライブ (C:)) のサイズを指定する
- ③ [次へ] ボタンをクリックする

「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

5

パソコンを初期状態に戻したあとは

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう一度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 ▶ 周辺機器の接続「取扱説明書」

その他必要に応じて、インターネットやメールの再設定、ウイルスチェックソフトの設定や更新などが必要です。



- Office搭載モデルの場合、リカバリー後、「Office」のライセンス認証が必要になります。

参照 ▶ 詳細について「はじめに - 「Office」のライセンス認証について」

- 一部のアプリケーションは、リカバリー後に再インストールなどをする必要があります。

参照 ▶ 詳細について「本章 6 プレインストールのアプリケーションを再インストールする」

① パーティションを変更してリカバリーをした場合

* Windows 7のみ



Windows 7で「パーティションサイズを指定して復元」を選択してリカバリーをした場合にのみ、リカバリー後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い パーティションを設定するにあたって


- Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、ボリュームがないプライマリパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリーをするためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリーはできなくなります。

1 管理者ユーザーアカウントでログオンする

2 [スタート] ボタン () → [コントロールパネル] をクリックする

3 [ システムとセキュリティ] → [ 管理ツール] をクリックする

4 [ コンピューターの管理] をダブルクリックする

5 画面左側の [ ディスクの管理] をクリックする
設定していないパーティションは [未割り当て] と表示されます。

6 [ディスク0] の [未割り当て] の領域を右クリックする

7 表示されるメニューから [新しいシンプル ボリューム] をクリックする
[新しいシンプル ボリューム ウィザード] が起動します。

8 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

- ・ボリュームサイズの指定
- ・ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・パーティションのフォーマット
 - ・ファイルシステム
 - ・アロケーションユニットサイズ
 - ・ボリュームラベル
 - ・クイックフォーマット
 - ・ファイルとフォルダーの圧縮

9 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が「正常」と表示されれば完了です。

詳しくは、「コンピューターの管理」のヘルプを参照してください。

【ヘルプの起動】

- ① [コンピューターの管理] 画面のメニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

② Office 製品の再インストールとライセンス認証

* Office 搭載モデルのみ

付属のリカバリーDVD-ROMを使ってリカバリーした場合、リカバリー後にOffice製品を再インストールする必要があります。インターネットからのダウンロード、またはバックアップディスク（有償）を利用して再インストールすることができます。再インストール方法は、『パッケージに付属の説明書』または次のホームページを参照してください。

URL: <http://www.office.com/jppipcsetup/>

ハードディスクや、作成したリカバリーメディアからリカバリーした場合は、リカバリー後、Office製品の再インストールは必要ありません。

いずれの場合も、Office製品の初回起動時にライセンス認証が必要になります。

③ バックアップしておいたデータを復元する

バックアップをとっておいたデータを使いたい場合は、バックアップした記録メディアからデータを読み込んでください。アプリケーションによってバックアップ方法や復元方法が用意されている場合は、その方法に従って復元してください。

6



プレインストールのアプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバーを指定して再インストールすることができます。


同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記の方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 「アプリケーションの再インストール」の起動手順

■ Windows 8.1 の場合 ■

- 1 スタート画面で、ポインターを下側に移動する
- 2 画面左下の  をクリックする
- 3 [ アプリケーションの再インストール] をクリックする

■ Windows 7 の場合 ■

- 1 [スタート] ボタン () → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする

2 操作手順

1 [セットアップ画面へ] をクリックする

アプリケーションやドライバーのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバーのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、[ドライバー] タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。

画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。

画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

2 画面左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の [「XXX」のセットアップ] をクリックする

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。

選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。説明文の下の、下線が引かれている言葉をクリックしてください。

3 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

「XXXXXX (ファイル名) を実行または保存しますか？」または「このファイルを実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、[実行] ボタンをクリックしてください。




メモ

- Windows 8.1 の場合、[アプリケーションの再インストール] にないアプリケーションは、Windowsストアからダウンロードできる場合があります。

4章

廃棄／譲渡について



パソコン本体を捨てる時や人に譲るときの処置について、知っておいて欲しいことを説明しています。

1 捨てる時／人に譲るとき

42



1

捨てるとき／人に譲るとき

本製品を廃棄するときは、企業と家庭では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。東芝は、廃棄品の回収と適切な再資源化処理を実施しております。(有料)

以下へお問い合わせください。

● 問い合わせ先

東芝IT 機器リサイクルセンター
TEL : 045-440-6433
受付時間: 9:00~17:00
(土・日・祝日、当社指定の休日を除く)
FAX : 045-453-2472 (24時間受付)

● 東芝ホームページで紹介

ホームページ:
<http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>

2 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。廃棄品の回収と適切な再利用・再利用処理を有料で実施いたします。

● パソコン回収受付窓口

東芝 dynabook リサイクルセンタ

● 回収申込方法

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
ホームページ:
<http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>
(24時間受付)
- 電話にてお申し込みの場合
東芝 dynabook リサイクルセンタ
TEL : 043-303-0200
受付時間: 10:00~17:00
(土・日・祝日、当社指定の休日を除く)
FAX : 043-303-0202 (24時間受付)

● 回収・再資源化対象機器

対象	東芝製の ・ノートパソコン本体 ・デスクトップパソコン本体 ・ブラウン管 (CRT) ディスプレイ ・液晶ディスプレイ ・ディスプレイ一体型パソコン
	対象外 ・プリンター ・携帯情報端末 (PDA) ・別売りの周辺機器 ・HDD ビデオレコーダー ・ワープロ専用機

3 お客様登録の削除について

● ホームページから削除する

東芝ID (TID) をお持ちの場合はこちらからお願いします。インターネットの次のアドレスに接続して登録を削除してください。

ホームページ: <http://toshibadirect.jp/room1048/>

● 電話で削除する

「東芝ID事務局 (お客様情報変更)」までご連絡ください。

- 東芝ID事務局 (お客様情報変更)
TEL : 0570-09-1048 (ナビダイヤル)
受付時間: 10:00~17:00
(土・日、祝日、東芝休日を除く)

4 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

なお、ハードディスクドライブに保存されているデータやプログラムなどはすべて消失します。パーティションも消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

Windows 8.1 の操作手順

ハードディスクドライブの内容を削除するには、ハードディスクドライブの消去機能、作成したリカバリーメディア、付属のリカバリーDVD-ROM (付属しているモデルのみ) を使用します。

ハードディスクドライブの消去機能を使用すると、ハードディスクドライブ内のデータはすべて消去されますが、初期状態に戻す機能は残ります。

作成したリカバリーメディアや、付属のリカバリーDVD-ROMを使用すると、ハードディスクドライブ内のデータと共に初期状態に戻す機能も消去されます。

【ハードディスクドライブの消去機能から行う方法】

1 データを保存し、(Shift) キーを押しながら [シャットダウン] をクリックして電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

2 パソコンをご購入時の構成に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後にキーボードの **[0]** (ゼロ) キー (かな入力の **[わ]** キー) を数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。**[オプションの選択]** 画面が表示されます。

4 **[トラブルシューティング]** をクリックする

[トラブルシューティング] 画面が表示されます。

5 **[TOSHIBA Maintenance Utility]** をクリックする

ツールの選択画面が表示されます。

6 **[ハードディスク上の全データの消去]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

消去方法を選択する画面が表示されます。

7 目的に合わせて、**[標準データの消去]** または **[機密データの消去]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

通常は **[標準データの消去]** を選択してください。データを読み取れなくなります。

より確実にデータを消去するためには、**[機密データの消去]** を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

[データの消去を開始します。] 画面が表示されます。

8 **[次へ]** ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、**[キャンセル]** ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると、消去が実行されます。消去が完了すると、終了画面が表示されます。

9 **[終了]** ボタンをクリックする

[作成したリカバリーメディアや、付属のリカバリーDVD-ROMから行う方法]

* ここでは、リカバリーメディアを使用した場合について説明します。

リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 ▶ 「3章 2 リカバリーメディアを作る」

1 パソコンをご購入時の構成に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。

USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後に **[F11]** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **[Enter]** キーを押してください。

4 **[↑]** または **[↓]** キーで起動ドライブを選択する

リカバリーメディアがDVDの場合は本製品のドライブを示す項目、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目を選択し、**[Enter]** キーを押してください。

■ 表示言語を選択する画面が表示された場合

[日本語] を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックしてください。

「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示されます。

5 **[TOSHIBA Recovery Wizard]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

警告メッセージ画面が表示されます。

6 画面の内容を確認し、**[はい]** ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

7 **[ハードディスク上の全データの消去]** をチェックし、**[次へ]** ボタンをクリックする

消去方法を選択する画面が表示されます。

以降は、本項の「ハードディスクドライブの消去機能から行う方法」の手順8以降を参照してください。

Windows 7 の操作手順

ハードディスクドライブの内容を削除するには、ハードディスクドライブのリカバリーツール、または作成したリカバリーメディアを使用します。

ハードディスクドライブのリカバリーツールを使用すると、ハードディスクドライブ内のデータはすべて消去されますが、リカバリーツールは残ります。

作成したリカバリーメディアを使用すると、ハードディスクドライブ内のデータと共にリカバリーツールも消去されます。

[ハードディスクドライブのリカバリーツールから行う方法]

1 データを保存し、**[Shift]** キーを押しながら **[シャットダウン]** をクリックして電源を切る

参照 ▶ 電源の切りかた『取扱説明書』

2 パソコンをご購入時の状態に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後にキーボードの **0** (ゼロ) キー (かな入力の **わ** キー) を数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーを押してください。

警告メッセージ画面が表示されます。

- OSのタイプを選択する画面が表示された場合
[次へ] ボタンをクリックしてください。

4 画面の内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

5 [ハードディスク上の全データの消去] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

消去方法を選択する画面が表示されます。

6 目的に合わせて、[標準データの消去] または [機密データの消去] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

通常は [標準データの消去] を選択してください。データを読み取れなくなります。

より確実にデータを消去するためには、[機密データの消去] を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

[データの消去を開始します。] 画面が表示されます。

7 [次へ] ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[次へ] ボタンをクリックすると、消去が実行されます。消去が完了すると、終了画面が表示されます。

8 [終了] ボタンをクリックする

【作成したリカバリーメディアから行う方法】

リカバリーメディアは、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照 「3章 2 リカバリーメディアを作る」

1 パソコンをご購入時の構成に戻す

取り付けた拡張カード類や周辺機器などはすべて取りはずしてください。

2 リカバリーメディアをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリーメディアが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。

USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

3 電源を入れ、ビープ音が鳴った直後に **F11** キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して **Enter** キーを押してください。

4 **↑** または **↓** キーで起動ドライブを選択する

リカバリーメディアがDVDの場合は本製品のドライブを示す項目、リカバリーメディアがUSBフラッシュメモリの場合はUSBフラッシュメモリを示す項目を選択し、**Enter** キーを押してください。

警告メッセージ画面が表示されます。

- 「TOSHIBA Recovery Wizard」か「システム回復オプション」かを選択する画面が表示された場合
[TOSHIBA Recovery Wizard] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。
警告メッセージ画面が表示されます。

[システム回復オプション] には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。詳しくは、「2章 2 「システム回復オプション」で調べる」を参照してください。

- OSのタイプを選択する画面が表示された場合
どちらのOSタイプに復元するかをチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。

以降は、本項の「ハードディスクドライブのリカバリーツールから行う方法」の手順4以降を参照してください。

5 TPMの内容を消去する

* TPM搭載モデルのみ

TPMを使用している場合、ハードディスクドライブだけでなく、TPM内部のデータを削除する必要があります。登録情報など、セキュリティに関する重要な情報が含まれるため、必ずデータを削除してください。

参照 『取扱説明書』

リカバリーチェックシート

パソコンを初期状態に戻す（リカバリー）前に、本ページをコピーするなどして、次の項目を順番にチェックしながら実行してください。各チェック項目の詳細は、「3章 買ったときの状態に戻すには」で説明しています。

① パソコンを初期状態に戻す前に確認すること

- ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
- 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認してみる
- 『取扱説明書』をご覧になり、ほかのトラブル解消方法を探してみる
- システムの復元で以前の状態に復元する

② パソコンを初期状態に戻す前にしておくこと

①準備するもの

- 『セットアップガイド』（本書）
- 『取扱説明書』
- このリカバリーチェックシートをコピーしたもの
- リカバリーメディア（作成したリカバリーメディアからリカバリーする場合）
- リカバリーDVD-ROM（付属しているモデルの場合）

②必要なデータのバックアップをとる

バックアップをとることができる場合は、とっておいてください。リカバリーをすると、購入後に作成したデータはすべて消失します。

- [ドキュメント]（または[マイ ドキュメント]）、[ピクチャー]（または[マイ ピクチャー]）などのデータ
- 購入後にデスクトップに保存したデータ
- Microsoft Internet Explorerの[お気に入り]のデータ
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
- 購入後に作成したフォルダーやファイル

③アプリケーションのセットアップ用のメディアを確認する

購入後にインストールしたアプリケーションなどは、リカバリー後にインストールする必要があります。リカバリーした直後は、お客様がインストールしたソフトなどは復元されません。ご購入されたメディアなどから再度インストールしてください。

④各種設定を確認する

⑤周辺機器をすべて取りはずす

③ パソコンを初期状態に戻す流れ

リカバリーをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

- ①リカバリー
- ②ウイルスチェックソフトのインストール（必要に応じて）
- ③周辺機器（プリンターなど）を取り付けて、設定する
- ④インターネットやメールの設定
- ⑤ウイルスチェックソフトの設定と更新
- ⑥Windows Update
- ⑦アプリケーションのインストール
- ⑧データの復元

